

アルゴフロートで観測される渦 Eddies observed by Argo floats

*勝又 勝郎¹

*Katsuro Katsumata¹

1. 海洋研究開発機構

1. JAMSTEC

海洋循環、特に子午面循環において渦は重要な役割を果たす。しかしその限られた水平スケールのために総観規模での（同時）観測は困難であり、もっぱらその役割は数値シミュレーションで定量化されてきた。海洋物理学観測に革命をもたらしたアルゴフロートは渦観測でもその役割を十二分に発揮する（とはいっても現状では深さが限られてしまうのだが）。

海洋循環論でもっとも自然な Temporal Residual Mean の考え方をを用いて、海洋上層 1000 dbar 以浅の渦輸送をアルゴフロートによって観測された温度・塩分・停留深度における流速から計算した。渦輸送は西岸境界流や南大洋で強い。中緯度では渦はもっぱら 1000 dbar の等密度線を横切る向きで赤道向き。南大洋とくに環海流南部では極向きで 10 Sv 以上の大きな値を示す。

南大洋に着目すると渦による東西運動量の鉛直輸送や近年注目される環海流の風に対する反応の海底地形への局所化などが議論できる。

キーワード：渦、南大洋

Keywords: Eddy, Southern Ocean